

- 5月7日 八島小学校5年生に、サンゴ礁の基礎学習とフィールドでのサンゴの健康診断
- 5月12日 自然と子ども、昔の風景復元プロジェクト…野底崎ピークアタック
- 5月25日 自然と子ども、昔の風景復元プロジェクト…聞き取り調査
- 5月25日～6月8日 自然と子ども、昔の風景復元プロジェクト…イラスト作成
- 5月17日 明石小学校サンゴ礁に関する基礎学習
- 6月9日～6月10日 福島県「アクアマリンふくしま」で開催された海辺の環境教育フォーラム参加
- 6月21日 しらほサンゴ村でサンゴ水槽組み立て
- 6月28日 崎枝小中学校 サンゴ水槽メンテナンス学習
- 7月1日～2日 開明中学校修学旅行 サンゴレクチャー
- 7月13日 崎枝小中学校 サンゴ養殖体験学習
- 7月15日 石垣港みなとまつりに参加/しらほこどもクラブにて、ウミガメ学習会・ウミガメ調査実施
- 7月18日 登野城小学校 サンゴ実験学習
- 9月1日～2日 大阪の私立中学校修学旅行受け入れ
- 9月14日～17日 横浜エコアクア出展…横浜赤レンガ倉庫
- 10月3日 しらほサンゴ村サンゴ水槽にサンゴ導入
- 10月11日 野底小学校 サンゴ実験学習
- 10月12日 明石小学校 サンゴ実験学習
- 11月1日 ネイチャーワークス平井氏を招いて、サンゴ礁学習プログラム研修会開催
- 11月2日 八島小学校5年生に、サンゴの生態とサンゴ礁の環境問題を学ぶ「サンゴのテリトリーウォーズ」実施
- 11月10日 しらほこどもクラブ…アンパル干潟観察会とサンゴ水槽プログラム実施
- 11月13日 しらほサンゴ村サンゴ水槽にサンゴ最終導入
- 11月15日 白保小学校6年生にサンゴ水槽学習
- 11月30日 島内で環境学習をしている6校集まっての環境学習交流発表会実施

サンゴって、なあに？

サンゴは、クラゲやイソギンチャクの仲間で、刺胞動物という生き物です。卵を産んで子孫を増やしますし、成長もします。全世界に約900種類もいると言われており、その中でサンゴ礁という地面をつくるものを造礁サンゴと呼びます。世界最大のサンゴの造形物がオーストラリアのグレートバリアリーフです。この造礁サンゴたちは、熱帯・亜熱帯地域の水温20℃～30℃の暖かい海に生息し、日本では沖縄が主たる生息地となります。



なぜ、サンゴがテーマなの？

サンゴたちは色とりどりで、南の海を鮮やかにしてくれます。人が憩える海をつくってくれています。それだけでなく、サンゴがつくるサンゴ礁は、地球上の海の0.2%しかないのに海洋生物の25%がすんでいると言われていて、たくさんの生き物にとっても、大事な場所なのです。しかしそのサンゴが、いろいろなストレスを受けて死んでいます。生きたサンゴが広がるきれいなサンゴ礁がどんどんなくなっています。これは人間だけでなく、地球上の生き物たちすべてにとっての問題なので、しっかりと考えなければいけないことだからです。沖縄・石垣島には身近にサンゴ・サンゴ礁があります。地域にあるこんなに大事な環境を知ることが、とっても重要だと思ったからです。



サンゴ元気で島ハッピー

vol.01

わくわくサンゴ石垣島News

2012 冬

Supported by THE NIPPON FOUNDATION

八重山漁業協同組合サンゴ養殖研究班

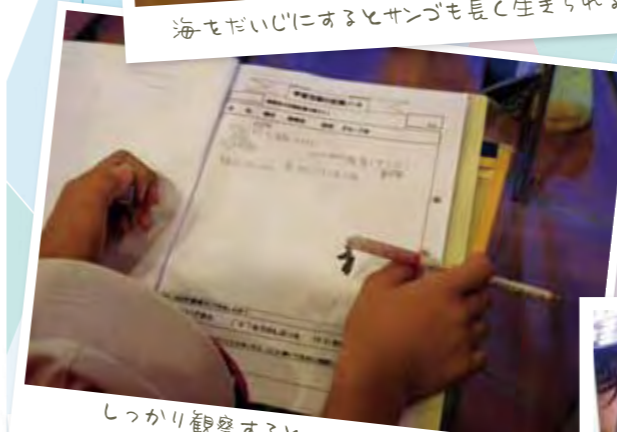
白保魚湧く海保全協議会

石垣島沿岸レジャー安全協議会

NPO 法人沖縄エコツーリズム推進協議会



海をだいじにするとサンゴも長く生まらゆる。



しっかり観察すると、よくわかるや。



生まてるサンゴ、はじめて見てわかりました。



ほんもののサンゴって固いな。



私たちのまわりの海はサンゴがいっぱいいるんだって。



サンゴが生まるのよ、こんたはに大変だったんだ。



サンゴって水そうで育てらゆるんだや。

サンゴ養殖研究班は

八重山漁業協同組合の組合員をメンバーとして、サンゴの海面養殖を実施している団体です。どの種類のサンゴを、どのような場所で、どんな風に養殖すればより良く成長するのか。サンゴ礁に生息する魚や貝やナマコにエビ、カニを採りながらサンゴ礁を観察し、サンゴとの関係を探っています。海で繋がる大きな環境の変化を受け入れながら、サンゴ礁の営みを少しでも残し、伝えていきます。このプロジェクトでは「サンゴを見て触れて感じる」ことができる、海人ならではの学習プログラムを島の子どもたち全てに提供していきます。



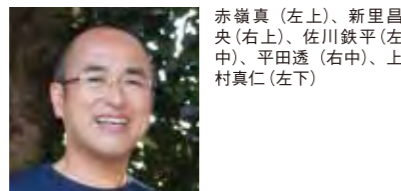
小林鉄郎(左上)、野里栄一(右上)、新盛裕二郎(左下)、川畑ジョナタス(補佐)(右下)



石垣島内4つの小学校・中学校で、サンゴ水槽を使ってサンゴ実験学習と養殖体験学習をしました。

白保魚湧く海保全協議会は

島の暮らしに無くてはならないこの豊かな海を保全するとともに、その持続的な利用による地域の活性化を図ることを目的として白保の各種団体が共同で設立したものです。このプロジェクトでは、サンゴ水槽を活用した学習プログラムを始めとして、赤土流出防止対策や伝統漁具“海垣”の活用など「サンゴ礁文化」と呼ばれる暮らしとサンゴ礁の関わりの体験学習のプログラム化を目指します。



赤嶺真(左上)、新里昌央(右上)、佐川鉄平(左中)、平田透(右中)、上村真仁(左下)



白保小学校とのサンゴ学習(写真上)、修学旅行で石垣島を訪れる中学生などにサンゴレクチャーを行ってきました。(写真下) 生きたサンゴの水槽を導入して、WWF ジャパンや沖縄大学とサンゴ学習プログラムを開発しています。

石垣島沿岸レジャー安全協議会は

シュノーケリングやカヤックなどを行うエコツアー業者の団体です。石垣島の自然をフィールドに利用しているお返しとして、環境保全や環境教育活動をおこなっています。このプロジェクトを通して、島の誰もが納得できる豊かな自然に満ちたビジョンを、子どもでも大人でもおじいでもおばあでも楽しめる形で提示し、同時に環境を回復させるための知恵を探し出したいと考えています。



石垣島沿岸レジャー安全協議会のメンバー



環境省の子どもパークレンジャー事業と連携して、石垣島内3小学校へのサンゴ学習を実施(写真上)、協議会メンバーの研修とも位置付けました。自然と子ども、昔の風景復元プロジェクトとしてイラスト作成(写真中)をすすめたり、オリジナルサンゴ学習教材を開発(写真下)したりしてきました。



平井和也



のぼり二種

NPO 法人沖縄エコツーリズム推進協議会は

持続可能な観光地域づくりを県内各地域において主体的におこなう多様な方々の連携体制です。エコツーリズムとは「持続可能な観光地域づくり」です。沖縄の自然や歴史、伝統そして生活文化を守りながら、持続可能な観光活用を図る仕組みを組み立て、この活動によって対象となる地域に、活性化と良好な生活環境がもたらされる、真の意味での豊かさがある地域づくりをすすめるものです。このプロジェクトでは、サンゴをテーマとした石垣島の学習づくり、地域づくりを広報やプログラム開発部分でサポートします。

